

にぎわい

—日本海にぎわい・交流推進協議会開催—

会員だより

〔鳥取県発〕

「鳥取かにフェスタ2000」の開催について

去る3月20日に鳥取港西浜地区において、『鳥取かにフェスタ2000』が開催されました。

この会は、来る中国横断自動車道「姫路鳥取線」や山陰自動車道の開通を目の前にして、鳥取県東部地域の物流及び観光拠点として鳥取港西浜地区のまちづくりと地場産業の振興を推進するため、地域資源である「かに」「鳥取港」「日本海」を広く県内外に発信するため開催されたものです。



かに汁配付

会場では『かに感謝祭り』として、かに汁・かに飯の無料配布のほか、カニのつかみ取りや、クイズ大会、かにレストランや、カニの水族館、かにをはじめとする日本海の新鮮な水産物の即売などが行われ、3万人の家族連れなどで大いに賑わいました。

また、地域資源を活かしたまちづくりを考えようと、フォーラム『カニとまちを考える集い』が開催され、片山善博鳥取県知事による基調講演「鳥取港を核とした地域振興」に続き、これからの環日本海交流や地場産業を活かした地域振興策について西尾遼富鳥取市長や地元住民を交えたパネルディスカッションが行われました。



この中で知事は、「これからの日本海が世界に向かって、特にアジアに向かって開かれて行く中で、鳥取港はその最前線として成長性がある。さらに、高速交通体系の整備により、山陰から京都までの日本海をつなぐ東西軸及び関西方面へとつながる南北軸との結節点に位置する鳥取港は更に大きく発展する可能性を有している。」と、これからの鳥取港にかける期待を述べました。

(鳥取県土木部港湾課)

《兵庫県発》

但馬沖深層水 利用構想研究に着手

兵庫県但馬地域は日本海に面した山陰海岸国立公園の美しい海、山、古い歴史を持つ風光明媚な温泉など、観光地としての大きなポテンシャルを有しています。しかしながら産業の中核と位置づけられている水産業の衰退が著しく、但馬地域の活性化方策が重要な状況にあります。

一方、但馬地域には「深層水」と呼ばれる未利用の豊かな資源が目の前に眠っており、現在、この深層水を活用した地域活性化方策の検討が叫ばれています。深層水の研究は全国各地で始まっており、既に養殖、飲料水、アトピー性皮膚炎の治療等に活用されているところですが、平成11年9月よりこの深層水の利用実現に向けて地元企業、学識経験者等を中心に試験研究機関の協力も得ながら「但馬沖深層水利用研究協議会」が設立され、平成12年4月に全体構想の概要がとりまとめられました。

協議会からは、日本海固有冷水を起源とする深層水が持つ、低温安定性・富栄養性・清浄性という特徴を生かして、水産利用やエネルギー利用はもちろんのこと、農業、食品、化粧品、健康飲料、地域冷暖房等、多方面に渡る活用の検討が提案されており、今後、この報告書をもとに、構想の具体化に向けた課題や環境への影響など、さらなる検討が行われることになっています。

(兵庫県県土整備部土木局港湾課)



但馬沖日本海固有冷水利用構想

(1999.12. 但馬沖深層水利用研究協議会作成)

《三建舞鶴港発》

舞鶴港は宝の山？

当事務所が舞鶴港に建設中の和田埠頭-1 4 m岸壁前面の泊地2 4万平方メートルの浚渫予定区域の潜水探査を4月18日から実施したところ、探査初日から旧日本軍のものとみられる砲弾が50発（最大で直径15 cm長さ60 cm）、信管や火管141個、総重量786キロも発見されました。爆弾にはいずれも信管は付いておらず、強い衝撃を与えなければ爆発の危険は少ないらしいのですが、たった一日の潜水探査でこれだけ上がるとは驚きました。

舞鶴港は旧軍港であり、戦後海中投棄された砲弾が工事をするとたくさん出てくるのは毎度のことです。特別、広報活動は考えていなかったのですが、砲弾の情報を聞きつけたマスコミ各社の電話取材が当事務所に殺到し、日を改めプレス対応する事にしました。4月27日、早朝から撮影現場に新聞6社テレビ4局が詰めかけ、じっくりと砲弾の処理風景や作業状況等を撮影してもらいました。



潜水探査初日に上がった砲弾（一部）

その結果、テレビは当日確認できる限りで3社放送され、新聞は翌日の朝刊に載るなどマスコミ関係に大きくとり上げられました。磁気探査は6月15日に終了し、探査の結果砲弾、火管、信管など合計2494個も出てきました。

事務所も事前に様々なプレス投げ込みなどを行っているのですが、記者の皆さんが何に飛びつくのか？が分からず、広報というのは難しいものだとして改めて事務所職員一同痛感しました。

（第三港湾建設局舞鶴港湾工事事務所）

《三建境港発》

代表団9名が境港を見学

— 今秋のサミット成功に向けて実務者会議が開催 —

6月15日、韓国及びモンゴルの方々9名が、事務所に来訪されるとともに境港を船上視察されました。

これは、「第7回環日本海圏地方政府国際交流・協力サミット」の実務代表者会議（主催・鳥取県）の一連の行事として行われたものです。

事務所を訪れられた一行の方々に、まず、島田所長は、当事務所の事業概要の説明を行うとともに、「環日本海交流に果たす港湾の役割りは大きく地元からの要請・期待に応じていきたいし、今秋に開催されるサミットが成功されますよう願っています。」と歓迎と期待をこめた挨拶を行いました。



その後、一行は監督測量船「みほかぜ」に乗船し、境港を船上視察しました。船上での港湾施設の説明では、「防波堤の建設費はいくらか」「ケーソンの重さはどのくらいか」など、矢継ぎ早に質問が出されるなど、港を知っていただく場とすることができました。

このサミットは、平成6年から韓国江原道、中国吉林省、ロシア沿

海地方、鳥取県の知事・省長が一堂に会し、今後の交流・協力について協議する「環日本海圏地方政府国際交流・協力サミット」を開催しているもので、第7回目をかぞえる今年にはモンゴル中央県が初めて正式参加をすることになっています。

今年のサミット日程は、11月5日～10日に鳥取県内で行われることが決定し、「こども環境サミット」「地方政府経済協議会」「地方政府環境フォーラム」「歴史文化研究会議」「特産品展示会」「美術作品展示会」「こども文化交流事業」など多彩なイベントが予定されています。

(第三港湾建設局境港湾空港工事事務所)

《浜田市発》

第6回全国ハイヤサミットは浜田市で開催

かつての歴史と文化の流れを探り、先人達のきづなの深さを再認識するとともに、地域間交流の活性化推進のため全国ハイヤサミットが開かれています。

今年は8月5日（土）浜田市で開催され、午後、石央文化ホールで自治体や民謡団体の代表が集い、継承普及活動の促進や全国的ネットワークづくりについて協議を行い、その後、それぞれの地域に伝わるハイヤ系民謡の唄と踊りが披露されます。

秋田、新潟、長崎、熊本、沖縄、広島各県の民謡団体が参加され、浜田市も「浜っ子ハイヤを育てる会」が出演いたします。

当日は、浜田漁港で浜田マリン大橋の開通式があり、また、夕方からは浜っ子夏まつりが開催され「ハイヤ総踊り」が行われます。

港で栄えた浜田の地で、全国の仲間の皆さんと唄い踊り交流の輪を広めたいと思いますので、是非ご参加ください。飛び入りも大歓迎いたします。

（浜田市建設部国県事業推進課）



浜田マリン大橋



ハイヤ節の起源

四方を海に囲まれた日本では、物資輸送の中心は海上交通であり、船はいずれも一本柱に一枚帆の帆船のため、風向きや潮の流れあるいは時化のため何日も出航できないことを余儀なくされました。

船乗りは、風待ち等のたびにその港で滞留し、よその港で覚えた酒席の歌を披露しました。このようにして港の酒盛り歌は、船乗りを媒介にして各地の港へ広まりました。

九州では、船を北へ向かって走らすには南風が必要で、この南風をハエの風と呼んでいました。そうした所からハエがハエヤになり、ハエヤがハイヤになって歌詞が生まれ歌い出し文句をとってハイヤ節と呼ばれるようになりました。

ハイヤの流れを汲む浜田節

浜田節は、漁業振興を図ろうとする市民の意識から、大正時代に浜田漁港築港の機運を盛り上げようと「ハイヤ節」をもとに編曲された水産浜田の心意気を唄いあげたもので、築港節とも言われていました。この浜田節は、ハイヤの譜系を引きつつも、主に御座敷小唄として踊り唄い継がれていましたが、より多くの市民が気軽に踊れ、祭りなどに楽しく参加できないかとの関係者の思いから、現在は「浜っ子ハイヤ節」も考察されています。

「河下港」が特定地域振興重要港湾に選定される

島根県が管理している「地方港湾 河下港」が、全国の他の11港湾などとともに特定地域振興重要港湾に選定されました。

河下港は、島根半島西部、平田市十六島湾の湾奥部に位置し、湾内の159ヘクタールを港湾区域としています。

古くは松江藩時代より背後の鉱山で産出する銀、銅、亜鉛、石膏等の積出港として栄えてきました。昭和23年から本格的に港湾施設整備が始まり、岸壁(-5.0m)が昭和41年には河下地区に、昭和47年には西田地区にそれぞれ整備され、背後地から産出される建設用石材の積出しが本格化しました。昭和42年に平田市が新産業都市に指定されたのを受け、昭和52年に河下港臨海工業団地が整備されました。昭和56年には誘致企業によってLPGターミナルが整備され、今では石材の積み出しのほか、各家庭や工場へのLPG配送の拠点となっています。

県では本年2月に策定した「島根県第3次中期計画」(2000年～2004年)で河下港を県東部における物流の拠点として整備促進を図ると位置付けていますが、特定地域振興重要港湾選定は地域の振興・活性化にとってもたいへん喜ばしいことでもあります。



特定地域振興重要港湾に選定された「河下港」

このたびの特定地域振興重要港湾選定を祝うため、6月1日、出雲広域圏拠点港整備促進期成同盟会(出雲地方の2市10市町村で構成)の主催により、圏域の市町村、市町村議会、島根県、島根県議会、商工会

等、関係者約60名が出席して地元平田市で祝賀会が開催されました。

また、去る6月22日には運輸省川嶋港湾局長、金澤三建局長、佐井課長等が現地視察に来県され、県知事、県議会議長、土木部長、出雲市長、平田市長等と意見交換が行われました。

なお、県では平成16年度を完成目標として、5,000トン級の貨物船が接岸できる耐震岸壁と、防災緑地の整備を推進することとされていますが、完成すれば県東部地域の産業振興に大きく寄与するとともに、防災緑地と耐震岸壁の整備によって、震災時における避難救助活動及び緊急物資輸送に対応でき民生の安定化が図られるものと考えております。



川嶋港湾局長(左)と太田平田市長(右)

(島根県土木部港湾空港課)

編集後記

毎日暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。本協議会は、8月24日に予定されている総会において、組織拡充を図り新体制へ移行し更なる飛躍を図っていく予定となっております。また、運輸省の体制についても、来年1月6日の省庁再編に伴う国土交通省への組織改正に向け、様々な準備を行っているところです。

今後とも、会員の皆さんと共に、日本海地域のより一層のにぎわいを目指し、お手伝いをしていきたいと思っておりますので、よろしく御願います。

第三港湾建設局 広域連携推進室

TEL 078-391-8361

FAX 078-325-8288